東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

こころの中を見つめよう　博愛を広げるために

Vol.44　第2188回例会　2011.10.20

今年度会長テーマ　和の心　自然に学びて未来を創ろう

■司会：
石山例会運営委員長

■点鐘：小町会長

■合唱：ロータリーソング
「日も風も星も」

◆ソングリーダー：
中條会員

■お客様紹介：
町田パスト会長

◆ゲスト：
東村山郷土研究会
会長　両澤　清様

◆ゲスト：
例会見学者
小笠原　信子様

◆ビジター：
福生中央ＲＣ
宮崎　慶男様

■会長報告　小町会長

先日のＩＭには多くの参加を頂きありがとうございました。小澤パストガバナーの「ロータリアンとは」と題し含蓄のあるお話を聞かせて頂きました。フォーラムでは「ロータリー活動を楽しくするには」のテーマのもと各クラブの代表が話されました。我がクラブも石山例会運営委員長が熱く思いを語ってくれました。主張を皆様どうとらえたでしょうか。もっとテンションをあげていき、そして楽しい例会等にしていきたい気持ちが表れたものです。私はロータリアンは品格のある人が日頃、職業を通じ奉仕活動に取り組んでいる人達と思います。ロータリーを楽しむためには自分に何ができるか、何をしたら楽しくなるか考えて頂きたいです。私も戒めの言葉として今日一日振り返り1.すべてにおいて落ちついて行動したか。2.約束は守ったか。3.楽しく仕事をしたか。･･･なかなか容易い事でもありませんが。他人に求めずまずは自分が何ができるかが大切と思います。
さて、本日はお客様に小笠原信子さんがお見えです。青年会議所の後輩でもあります。本日は楽しんでください。そして心より入会をお待ちしております。また両澤清様には東村山の村長、町長さんのおもしろ話と題した卓話を頂きます。楽しみに聴かせて頂きます。

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／赤木　盛一
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500

会務報告です。
①2014-15年度、当地区ガバナーノミニーは東京池袋ロータリークラブ鈴木孝雄君に決定しました。
②地区大会のご案内です。2012年2月22日帝国ホテルにて「震災復興」のテーマでパネルディスカッション、「日本復活、今日本人の持つべき心は」と題した金美齢氏の記念講演です。翌日は我がクラブの45周年記念式典です。楽しい企画をご期待ください。

■幹事報告　野村(高)幹事

■ガバナー事務所：
・世界ポリオデーに因んだイベントの案内の受理
2011年10月24日(月)
於　青山学院大学　15:30～17:30
於　ＸＥＸ愛宕グリーンヒルズ　19:00～
問合せ　一般社団法人グローバルヘルス協会

・ローターアクト主催　東京メトロツアーの案内について
2011年11月19日(土)　11:00～
於　(神田神保町)高橋ビルディングスタート

・2014-15年度当地区ガバナーノミニー決定について
東京池袋ロータリークラブ　鈴木孝雄君
(職業分類：通信機器製造)

・2011～12年度地区大会の案内の受理
ホストクラブ：東京足立ＲＣ
2012年2月22日(水)　12:00登録　13:00点鐘
於　帝国ホテル　　登録料　8000円
パネルディスカッション「震災復興」
記念講演：金美齢さん
テーマ：「日本復活、今日本人の持つべき心は!」

■米山奨学会：
・米山三者懇親会開催のお知らせについて
2011年11月17日(木)　16:00～21:00
於　ハイアットリージェンシー東京

・普通寄付金分の申告用領収書の申請について
申請期限は10月末(2011年1月～10月末分まで)

■国際奉仕委員会：
義援金等に関するアンケート報告の受理

■バギオ基金：
第3回定時評議員会議事録の受理

■東京東大和ＲＣ：
2008～2009年度多摩分区会長会のお知らせについて
2011年11月17日(木)　17:00～
於　オストレア(銀座8丁目)

■東村山ＲＣ：
・ＦＲＣ合同例会～空堀川清掃～の案内について
2011年11月23日(水)祝日
於　空堀川「からほり広場」
9時集合、12時まで清掃活動、13時～懇親会

・ＦＲＣ親睦ゴルフ大会の案内について
2011年12月9日(金)　7:15集合
於　青梅ゴルフ倶楽部

■社会奉仕委員会：
社会奉仕活動の調査のお願いについて
回答〆切　11月18日(金)

■東村山市緑を守る会：
秋の緑の祭典の案内
2011年11月3日(祝)　10:00～
於　国立多磨全生園

■例会変更：
所沢中央ＲＣ　10月31日→休会　他

■回覧：ハイライトよねやま
武蔵野女子学院ニュースレター

■唱和

事業の経営に最善の努力をする事は職業奉仕だ。

■出席報告　相羽例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
32	24	0	6	86.67

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：5名
■前々回出席率メークアップ修正後：83.87%
■前々会メークアップ者：
目時会員：東京東大和ＲＣ
荻野会員：東京東大和ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　山宮クラブ管理委員

■皆出席：
目時会員(23回目)

■会員誕生祝月：
相羽会員

■ご結婚祝月：
目時会員、町田会員

◆田中会員：両澤先生いつもお世話になっています。今日は一生懸命勉強させて頂きます。小笠原社長様ようこそおいで頂きました。東村山ロータリークラブ発展の為、皆で大切にしますのでお力をお願いします。先週、新しいお客様のコンペでベスグロ優勝し、￥45000のオデッセイのパターを頂きました。素晴らしい転がりで、それ以来パープレー前後で回れるようになりました。皆さん道具は良い物を使って下さい。地区大会の優勝に向けてトレーニングをお願いします。
◆宮 崎 様：本日はお世話になります。
◆小町会長、野村幹事：
東村山郷土研究会両澤様、福生中央ＲＣ宮崎様、小笠原さん、ようこそおいで下さいました。
◆嶋田会員：両澤先生、今日の卓話ご苦労様です。楽しみにしています。
◆野澤会員：小笠原さんようこそおいで下さいました。久々の女性入会者となるよう皆で大歓迎致します。
◆山本会員：福生中央ＲＣ宮崎様、本日はようこそいらっしゃいました。
◆五十嵐会員、中丸会員、野村会員、小町会長、目時会員：写真ありがとうございました。

本日のニコニコ合計：　35,000円
累　　計　：　396,700円

■委員長報告

■山本オンツーバンコク地区委員

みなさん改めまして今日は。
また、福生中央の宮崎さん、本日はようこそお越し頂きました。私と同じ、地区の国際奉仕の委員で、今活されております。
それから、小笠原さん、お久しぶりでございます。ＪＣの後輩になりますけれども、もしよければ入って頂くと、多摩地区の中で一番の美人さんがいるクラブという事で他クラブにも大きな顔が出来ると思うので、是非ご検討頂ければと思います。
それから、オンツーのコマーシャルですが、ちょっと皆さん、後ろを見て頂けますか。これでボタンを押すとコマーシャルが始まります。私がいる時は大体セッティングをしておいて、ここで流しておりますので、早めに来た方は是非ご覧になって頂きたいと思います。ちょっとこれはリピートがきかないので、もし止まっていましたら、ここにリモコンがありますから、右の矢印を押して頂いて、今のように決定を押して頂くとまた始まりますので、是非これからまだ先ですけれども、何回か見て頂き、気持ちを高めて、皆さんでバンコクに一緒に行って頂きたいと思います。以上です。宜しくお願いします。

■戸澤国際奉仕委員長

みなさん、今日は。今、山本さんが話されて、一緒にやってもらえば良かったのですが、オンツーバンコクということで、今バンコクでは雨と洪水でちょっと大変なんですけれども、今ちょうど雨季ではないのですが、今年は特に雨が多いようです。ちょうど我々の行く来年の５月ぐらいまでが、雨季に入る前ですから、それまでに何とか復興して頂ければいいなと思いますが、ちょっと大変な時に行く事になりました。
それで、今一応山本さんに地区の方にお声がけして頂いて、また会長幹事でもお声がけしてもらっていたのですが、お蔭様で多摩分区で、我がクラブが17名プラス2名みていたのですが、20名弱が参加し、他クラブから10名ちょっとが行かれるので、30数名で行く事になります。大体今月で締めるのですが、私のほうも来週の前半ぐらいで締めます。
まだ我がクラブで空きがありますから、少しでもまだ行ける人がいたら、是非申し込んで下さい。では、宜しくお願いします。

■田中社会奉仕委員長・ゴルフ部長

みなさん、今日は。3点お願いがあります。
社会奉仕委員会の方から、まず空堀川の清掃が11月23日の祭日の日に行われます。具体的に動き出しております。大勢の皆様のご協力をお願いします。
参加確認は致しませんので、全員参加でお願い致します。
2番目としまして、産業祭を11月12・13日、例年通り開催します。玉ねぎ、ゴボウ他色々考えていますが、山

のように売りあげ、青少年の活動資金でもありますので、この事業も全員参加でお願いします。ロータリークラブの思い・活動を満天下にアピールしたいと思います。また、ゴルフ部より、12月9日金曜日に開催が決まりました。東名ゴルフクラブにて開催致します。東村山ロータリークラブがホストです。大勢の皆様のご協力をお願いします。
みんなで心を一つにして、大成功に終わらせたいと思います。宜しくお願い致します。

■卓話

■卓話者紹介：
土方パスト会長

■卓話者：
東村山郷土研究会
会長　両澤　清様

東村山市　村長さん・町長さんたちのおもしろ話

皆さん、こんにちは。紹介に預かりました両澤でございます。実は、卓話は3回目になります。先日、土方先生から東村山の村長・町長さん達の話をして欲しいと言われ、全く困りましたけれども、今まで土方先生に逆らった人は誰もいないと聞いていたので、承知しましたということで、それから毎日眠れない日々が続きました。
実は私は東村山に来てまだ40年にならないです。ただ、とにかく地域のことが好きで、色々と聞き取りに行って記録をしました。これが私の自慢でございます。例えば、化成小学校の校長をしていらした、久米に住んでいた下田佐重さんの所にテープレコーダーを持って行きました。当時80何歳でお嬢さんに肩を支えてもらいながら降りてきて、2時間話して下さいました。それから、小山林平さんの家にも行って、雪の降った日でしたけれども、2時間録音を取ってきました。その録音は私の手元に未だにあります。これはおそらく東村山の宝物ではないかと思います。
そんなこともありまして、最初に自慢を致しましょう。今から20年ほど前に、市報に5年連続で東村山の教育の歩みを60回、1度も休まずに毎月毎月載せました。お世辞でしょうけれども、色々な人が「市報が来たらあなたの所を一番先に見るよ。それを楽しみにしている。」とおっしゃって下さいました。自分でもよく続いたものだなと思います。
自慢ばかりしていると30分経過してしまいますので、そろそろ本題に入りたいと思います。とにかく難しい題を頂きました。それから、今見ましたら、市長まで入っているので困ったなと思いましたが、市長については話したら時間が長くなるので、皆さんよくご存知ですから割愛させて頂きます。ただ、最後の町長さんの小山林平さんは、私も詳しく話しを聞いて、初代の市長でございます。それから、熊木先生は私にゴルフを手ほどきして下さいました。何回も何回も自分のコースの高麗川に連れて行って頂いて、「ゴルフというのはまず紳士のスポーツだ、それを勉強しなさい。」と、私自身が紳士でなかったため色々とお説教頂きましたが、未だに直りません。熊木先生には、だいぶお世話になりました。その後、市川一男さんは、私が久米川東の校長の時に、すぐ近くに家があって、お正月にいつも飲みに行きました。彼は、相手ばかりして苦しくて困っているのに痛風なんて嘘だ、俺も痛風だと粘って、とうとう別の飲み屋に連れ去られたこともあります。
また、廻田の細渕一男さん、私の結婚式の時に商工会長として来て下さいました。私が教え子の結婚式に出席した時に、市川一男さんと友達ですから呼んだら、商工会長さんもいらして下さり、市川さんよりも細渕さんの方が話が上手かったのを覚えています。その後が今の市長さん、この方は市議会議員に出る時にお世話になりました。
では、いよいよ本題に入ります。本題は大変難しいことで、まず、私は歴史なので歴史に関係のある話をしていきたいと思います。
村長さんというのは、村が出来て、その長になる方ですけれども、実はその村というのは、皆さんご存知のように、明治以降は色々な村の形がありました。例えば、昔からあるのは、今の久米川・野口・廻田・南秋津・恩多、これは江戸時代からありました。ところが、明治政府になってから、もっと機能的にすべきだと、富国強兵、税金を取り立てる関係だとか、国民を教育する必要の問題とか、義務化していくために、村を集めて連合役場というものを作りました。その連合役場が出来たのが明治17年です。このあたりでは野口村他3村、野口・久米川・廻田・恩多、その4つが一緒になって、正福寺に役場があって、連合役場が出来ました。南秋津は清瀬の方の役場に入りましたけれども、実は正式に市町村制度が出来て今の東村山村ができたのは、明治22年4月からでございます。ですから、今の東村山村の村長さんからお話したいと思います。
そこにプリントしておきましたので、ご覧頂きたいのですが、村長さんは第1代から第7代までですね。第8代からは町長に変わって、第11代までが町長さん。第11代の途中から市に市制が変わって市長になりました。顔写真が2枚載っていますが、これは私が写したのではありません。
今、庁議室に歴代の村長さん、町長さん、市長さんの写真が掲げてありますけれども、おそらくその写真は、島田佐重さんの本の最初に載っていた写真が掲載されたのではないかと思います。初代の小町さんについては写真がないので、庁議室には絵で載っています。まずどんな人かと言うと、1人ずつ話していくと時間がありませんので、特に歴史と関係のある方だけご紹介をしたいと思います。初代の小町籐太さん、この方は実は、明治17年に役場が出来た時に書記をしておりました。そんな関係で、東村山村が出来る前の事、御用留と言いますけれども、役所との交換文書、要するに幕府からの通達やその返事、陳情、そういうものを書き留めた文書をきちんと整理をして保存しておいてくれました。それを末裔のもう亡くなった小町かつみ様が市に寄付をしました。それが今ふるさと歴史館にきちんと保管されていて、東村山誕生前の記録としては非常に貴重な記録となっています。非常にまじめな性格で、そんなことが買われて初代の村長さんになったのだと思います。それから、2代目については、皆さん良くご存知だと思います。小嶋証作さん、衆議院議員もされたことがあります。この方について、東村山の歴史上で一

番大切なことは、駅の西口の停車場の碑に、この人達がいっぱい苦労をして出来たのだよという経緯が書いてあります。実は東村山駅が出来たのは、明治28年の8月でございます。その時のことが、詳しく書いてあるのです。それは、明治22年に新宿から八王子まで甲府鉄道が出来ました。甲府鉄道が出来て、川越の方も鉄道を通して欲しいということで、それから何年かたって明治27年の12月に川越まで鉄道を引くということで、引いたのですが、柳瀬川の鉄橋のところが狭くて、鉄橋をかけたらもう材木が流れてきて、水の海になってしまう。そこで、住民が反対したために、あそこまでしか鉄道が引けなかった。そのために、仮に久米川の停車場というのを作りました。それが出来て、東村山には停車場が出来る予定はなかったのだが、出来たので、まぁ喜びました。当時、むしろを持って重箱下げて1日がかりで歩いて見学に来た人もあったという昔話も伝わっております。ところがすぐ、28年の3月に川越まで鉄道が続いてしまうのです。そうすると、もう久米川の停車場は仮なので取り壊して東村山の駅がなくなってしまいます。駅がなくなったら村は廃れ落ちます。ということで、運動をした訳です。その時の村長が小嶋証作さんです。呼びかけをしまして、立川伊兵衛さん・町田六左衛門さん・当間勘左衛門さん、この方々が、「金を出す、土地も提供する、工事も全部やります、だから作って下さい。」ということで、あの停車場が出来たのです。東村山の市の文化財に指定されております。歴史的に当時の様子が良く分かる内容が書かれている価値のあるものだと思います。

あと、第4代の立川伊兵衛さん、この方は有名な方でございます。今、言いましたように、証作さんの時に、色々と右腕として働いていましたけれども、自分が村長さんになってから一番有名な話は、例の全生園の話です。今私がしている話は、実は小山林平さんの家に行って、林平さんが話した話が結構入っております。テープにも録っておりますが。

まずですね、東村山で一番大変な騒ぎが起きたのたが、全生園を作る時です。当時、らい病ということで、大変な伝染病、一番恐れられていた伝染病の病院が出来るということで、これは当然皆反対です。ところが、まず地主と東京都が相談をして、当時坪50銭を1円80銭にするということで、3倍以上4倍近いお金になるのはありがたいので、地主は賛成します。地主が手放せば、あとは府の土地になりますから、府は自由にできます。そういう事がいきなり降って湧いたのではなくて、最初は目黒側に話があって、次に田無にあって、次に清瀬にあって、皆蹴られたのです。らい病患者の病院なんてとんでもない、もう風が吹いたら死ぬ、体がケロイドになってしまう、鼻も目もなくなってしまう病気は嫌だということで、まぁ皆反対して無理でした。ところが、東村山の場合は、こっそりこっそり話を進めて行って、土地を売る人がほぼまとまって、そのときの村長さんが立川伊兵衛さんです。立川さんの仲立ちで、土地を売ったら5,000円を村に出すと。坪50銭の時代に5,000円という金額は大変なことですよね。今の原発の話をするのはあれですけれども、原発は皆反対するけれども、これだけ金が入ったら、村が繁盛する、村が栄えるのだからいいじゃないか、そういう人も出てきますよね。そういうことがあって、もう反対にあって、例えば、野際クラブの人・東久留米の人達などは決死の行動隊ではないけれど、命を懸けても反対というような動きでした。そんな中で測量に来ました。府の人達と役人、当時の府知事代理だとかが来て、立川伊兵衛さんはそれに立ち会いました。それがバレてしまったのです。こっそり来てこっそり測量しようと思ったが、バレた。これが林平さんの話で詳しく話しが出ましたけれども、この辺の人達は桑を持ったりして、昔の一揆ですね。

皆で押し掛けて、そして皆をぶん殴った。立川伊兵衛さんは命からがら枯れ葉の山の中に体を突っ込んでようやく助かったというような話でした。もちろんこの役人達も大怪我をしました。68人が拘禁起訴されました。逮捕はもっと多かったでしょうけれども。そして、裁判があって、1年以上の有罪が結構大勢出ました。もちろん、執行猶予も大勢いました。大変な騒ぎでした。東村山騒擾事件ということで、記録にあります。裁判記録にも残っております。その時の村長さんが立川伊兵衛さんでした。そんなことで、あくまで立川さんについては、話がたくさんありますけれども、時間がないので次へ移ります。

次は当麻喜重さん。この方は恩多の名主です。歴代名前を継いできたのですけれども、野火止用水に水車をかけたり、あるいは、名主として色々な事業をして参りましたけれども、この時はもう喜重さんという名前になっておりました。私が聞いた話で、土地で話したら、今は末裔のキヨコさんがまだお元気で幼稚園の園長をしていて、その娘さんも園長さんをしていますけれども、お母さん怒っていましたという話でした。喜重さんは、皆から村長になってくれないかとお願いされたのだけれども、まぁ面倒くさいことは嫌だし、しかも無給は嫌だと断ったら、喜重さんの時から有給の村長になった。しかし、有給になったのは村長さんになってからだ。このところは、間違わないで今度から話して下さい、と念を押されていますので、お話しますけれども、始めはそんなに積極的ではなかったけれども、非常に真面目な方で、一生懸命にやって、やはり村長さんが無給なのはおかしいということで有給になったという話もあります。

あとまだありますけれども、6代が小山久蔵さん、7代が榎本義道さん、私達は榎本きどうさん、きどうさんと呼んでいたのですが、正しくは、よしみちさんという名前のようです。

榎本さんについては、教員でございます。実はお父さんが有名な方です。榎本さだよしさん、あの化成小学校の初代の校長です。当時校長がいなかったので、校長代理が務めて、化成小の一番の責任者だった訳ですが、化成小学校という名前を付けたのは、この榎本さんです。その話をすると、時間がないので、簡単にしますけれども、その息子さんが当然教育養成の青山師範を出て、化成小に勤務しました。この方は、東村山だけでなく、よそに出たわけですが、29歳で校長になったのだから優秀な方だったでしょうね。今、校長になるのは40代過ぎ、45～46歳が当たり前、遅い人は50代ですよね、そんなところで、20代で校長というのは大変な出来る方、最後は新宿区の牛込の小学校長で終わりました。帰ってきてから村長さんになったのですから、家が立派な、多分記憶にある方はこの中ではいらっしゃらないですかね、大きな長屋門があって、そこで剣道を教えている、それぐらい広い立派な長屋門でした。

今は十何軒の屋敷になっていますが、教育委員会で行った時は、もう奥さんの名前で苗字が変わっていましたけれども、とにかくお父さんが有名な方でした。いつも一本棒の校長先生と呼ばれていました。いつも一本棒の下駄を履いていて、子供の面倒を見るのが非常に上手で、病気になった子がいるといつも薬を調合して与えていた。その頃医学は発達していなかったので、あの頃の薬というのは、気分も大切ですから、子供たちはこれで治ったと言ったらすぐ元気になって、やっぱり榎本先生のおかげで病気がすぐ治ったと大変評判が

良かったという話です。それから、次が島田憲三郎さん、この人は初代の町長になられた有名な方でございます。ここにいらっしゃる、島田憲三さんのお爺さんに当たる方ですが、私余計なことは言えません、お世辞になった自慢話でもしようかということで持って来たのですけれど、謙虚な方で体も弱かった方だし、最後は健康で辞められたのですが、1つだけ話してもらいました。市町村での連合会で、代表で満州へいらっしゃった。当時の満州というのは、満蒙開拓団あるいは満鉄、例の殿ヶ谷戸公園は満鉄の副総裁の別邸でしたね。それくらい満州には国が力を入れてらっしゃった。日本中から向こうへ大勢開拓だとか色々な仕事で参りました。東村山からも大勢行っております。そんな話をするときりがないのですが、島田憲三郎村長さんについては個人的にまたお聞き頂きたいと思います。
次に、これが一番有名な村長さん、小池喜八さんです。これこそ、日本全国で有名なと言っていいくらいです。というのは、北多摩群下初めて奏任官、いわゆるよく写真で見ますね。特別なリボン飾りが背中にも前にもある洋服を着て、前にズラーッと勲章が下がり、こういう帽子を被りますよね。ああいう格好をして馬に乗れる身分、北多摩群下で初めて彼が奏任官の位、身分を射止めました、それぐらい偉い方です。なぜ偉いかというと、彼は明治・大正・昭和に渡って化成の校長を務めた方です。ただ務めたのではありません。北多摩郡の中では一番古くて有名なのは府中です。いつも府中と張り合ってきた北多摩郡の中で最初に講堂を作ったのが化成小学校。講堂を作るということは、北多摩の人の集まり、皆集まって一堂に介して大会をするには講堂がなければならない、それを最初に作ったのが化成小です。そんなことで研究会がたくさんありました。それだけでなく、もっと有名なのは、戦時中に子供達を動員して日本の国策に協力したことです。まず、食料集め、どんぐり集めです。八国山がすぐ近くにあって、山だらけ、食料をいっぱい集めてきてそれを供出する。当時はテレビがありませんが、ラジオで全国版に放送されました。今は東村山の恩人といったら志村けんが東村山音頭を日本中に知らせてくれたのですけれど、当時は小池喜八さんが日本中に東村山の名を知らせてくれた。
ただ、残念なことに、化成小の100年の時に、私は正直言ってそれだけ話せるのは、私が教員だったからです。もう一つは東村山郷土研究会に入って色々地域の人が話してくれた。
教員だったのでもっと有利でした、聞きたい話を聞きに行けばおかしい秘密の話も話してくれた。例えば、話してくれるのはだいたいおじいちゃん、おばあちゃん。皆孫が可愛いのですよね。皆孫のためだったら話してくれる。
例えば、タブーだった仇討事件。仇討禁止令が出て、最後の仇討が東村山で行われた。これも有名な話でした。でもその後また仇討があって、最後の仇討ではなくなってしまったのですが、とにかくそんな話はまだ末裔がいますからタブーです。そういう話も色々してくれました。
例えば、廻田にいたときは、有名な清水忠助さん、お酒が好きな人で、私が行ったら酒をたらふく飲める。普段からあまり飲んではいけない、深酒はいけないと言われていましたが、孫の先生が来たということで、じゃあ乾杯しなければということでした。私が来た当時は、お月見の行事も恵比寿講の行事もなくなっていました。部分的にはお月見も恵比寿講も行われたようですけれど、普段写真を撮りたい、見たいといっても出来なかった。ところが、忠助さんがそういう晴れの日になるとそういう行事をちゃんとやってくれました。そして写真を撮りなと言ってくれ、長々と酒を飲みながら話をしてくれた。それらの記録も残しましたし、話も結構聞けましたし、有難い話で教師冥利に尽きるなと思いました。
話がだんだんずれてきましたけれど、小池喜八さんについては、先程話した化成の100年の時に行ったら資料が学校に何にもありませんでした。当時の教頭先生が、「ありません。」青山先生という郷土研究会の先生だった人もいまして、出てきて、「実は何にもないんです。本当の話です。」というのは、その時は言えなかったのですが、後の話ですが、小池町長が町長をやっていて戦犯に問われたのですね。要するに、戦時中に戦争協力したと戦争犯罪人の疑いがあるということで、色々調べられることになった。そこで、学校に指示をしまして、「古い書類は全部捨てなさい。」ということで、古井戸の中に捨てたそうです。
大変偉い先生だったけれども、その化成の記録というのは、これは東村山の歴史の記録なのです。大体どの市に行っても町に行っても記録は学校に残っているのです。大体そういうことを調べたり記録するのは、学校の先生が多くて、ここでも相当損をして何冊か残っていますけれども、そういうものは皆学校の教員が調べて書いている、歴史の事なんかを書いているのですから、たまたまそれは難を免れて残りましたが、あとはほとんど全部捨てられてしまいました。これは非常に残念なことです。多分この東村山の古い土地の人は親戚も多いでしょうから、とにかく、知っていても書かれないのが地元のルールのようです。
時間が差し迫ってきましたので、もっと話したいのですが、では次に清水忠助さん、この方は面白い人でした。まず、私が聞いた話では、飛行機に乗った時には、草履とおっしゃっていましたけれども、年中下駄を履いていました。しかも背広を着て下駄を履いていた。
面白い人で、実は彼の一番の功績は、東村山中学校が出来る時に、初めて六三制教育になって中学校ができるわけですけれど、とにかく久米川は久米川にほしい、野口は野口に欲しい、秋津がいいとか、皆自分勝手に意見を言っていた。その中で、彼がその選考委員の時に、喧嘩がないように一番遠くて一番不便な所にしようということで、今の一中のあるところに決めたのです。誰も文句を言えなかった。それですぐに町長になったのです。一中が出来た時の開校式の写真には、壇上で彼が町長として挨拶している写真が載っていました。その功績があったのではないかと話しております。
私とすれば、あの方は考古物を集めるのが好きで、土器や石器をたくさん集めていました。自分の屋敷にそれを置いていたのです。それで、石薬師と言いまして、多摩湖町の畑の中に薬師堂があって、石薬師の本尊を自分の家に持って行って、そして自分の家の松の木の下に置いていました。私はその写真を撮らせて頂いたら、清水さんの奥さんが「そんなもの持って行っていいよ。」と言いました。あの、宝物ですからね、もらって行かなかったら案の定、行方不明になってしまいましたけれども、とにかくそう物を偉かったから自分の家に集めていました。それが、亡くなってからは、後はどこに行ったか分からない、非常に残念ですけれど。もう時間ですので、これで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

■点鐘：小町会長